

特別支援教育におけるキャリア教育(1)

—特別支援学校及び特別支援学級における実践事例から改めてキャリア教育の意義を問う—

企画者	菊地 一文・大崎 博史(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)
司会者	大崎 博史(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)
話題提供者	稲石 恭子(福岡市立春吉小学校) 松見 和樹(千葉県立特別支援学校流山高等学園) 森脇 勤(京都市立白河総合支援学校)
指定討論者	木村 宣孝(北海道伊達高等養護学校) 山口幸一郎(早稲田大学)

KEY WORDS : キャリア教育 キャリア発達 特別支援教育

【企画要旨】

近年、研究課題としてキャリア教育をテーマに採り上げる学校が見られ、全国各地でキャリア教育研究会が発足してきている。また、特別支援教育関連雑誌においてキャリア教育の特集が組まれるなど、特別支援教育におけるキャリア教育への注目が高まってきている。今年3月の高等学校学習指導要領及び特別支援学校高等部学習指導要領改訂において、総則の中に「キャリア教育」の文言が位置付けられたことから、今年にはまさに特別支援教育における「キャリア教育元年」と言える。しかしながら、学校現場における実態として「キャリア教育」の捉えは多様であり、これまでの特別支援教育、知的障害教育においては目指してきたものとの違いやどのような実践が求められているのか等、その具体的実践内容・指導方法については議論されているところである。

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(以下、NISEとする)では、平成18年度～19年度課題研究「知的障害者の確かな就労を実現するための指導内容・方法に関する研究」において知的障害教育におけるキャリア教育推進の意義とその基盤となる枠組みの必要性について述べ、①国立教育政策研究所生徒指導センターにおける先行研究、②海外文献、③学習指導要領解説における知的障害者を教育する特別支援学校の各教科の内容、④全国6校の研究協力機関との研究協議等に基づき、知的障害のある児童生徒の「キャリア発達段階・内容表(試案)」を作成し、提案した。そして平成20年度～21年度専門研究B「知的障害教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究」において、全国の研究協力機関6校を対象に「キャリア発達段階・内容表(試案)」を基にした実践モデルの構築を目指し、現在実践研究を進めているところである。

本シンポジウムでは、これらの現状と課題をふまえ、特別支援学校及び特別支援学級における3つの実践事例を基に特別支援教育におけるキャリア教育の意義について再確認するとともに、今後のキャリア教育の充実を図るための方策及び課題への対応について検討する。

【話題提供の要旨】

小学校特別支援学級における交流及び共同学習の取組(稲石)

本学級では、生活単元学習を中心に教育課程の縦と横のつながりを意識した教育活動を行っており、この中で「働く」ことをテーマとした単元に取り組んでいる。

本報告では、これまでの取組の中から「郵便局」「レストラン」に関する単元について報告する。これらの単元では、子どもたちが自信を持って活動できる内容を選択し、学級だけでなく全校児童を巻き込んだ交流及び共同学習として進めている。繰り返しにより見通しや自信をもって活動に取り組むことや、周りから頼りにされたり、何かをすることで喜んで

もらえることを小学部段階から十分に経験したりすることは児童のキャリア発達を促す上で重要であると考えている。

また、特別支援学級の児童が主体となっていく交流及び共同学習は特別支援学級に在籍する児童だけでなく、通常学級に在籍する児童や教師にとっても意義があると考えている。

特別支援学校高等部におけるST学習の取組(松見)

本校では総合的な学習の時間を「ST学習」と称している。「ST学習」は、他の学習で学んだことを総動員して、自ら設定した課題を解決するための学習である。自らの意志で課題を決定し、主体的に判断して解決方法を探り、自ら課題解決に取り組む学習内容は、キャリア発達の諸能力の中でも「意思決定能力」に深く関わりがある。授業では、個別に取り組んでいる学習内容を題材として取り上げ、グループダイナミックスの視点から、集団討論・集団思考による学習活動を基本にしている。本報告では、仲間と一緒に学び合いながら、自分の課題について考え、解決に向けて主体的に取り組んでいく「ST学習」の授業づくりについて紹介する。

特別支援学校高等部におけるデュアルシステムの取組(森脇)

今までの職業教育のあり方をキャリア教育の視点と移行支援の視点から見直し、企業とのパートナーシップによる人材育成を図ることをめざした取り組みが、京都市が取り組んでいる「総合支援学校デュアルシステム」である。「働きながら学ぶ、学びながら働く」ことを通して、将来のライフスタイルをイメージ出来るように、企業・学校・家庭のそれぞれが支援目標の共有化を図ることがキャリア形成の促進につながると考える。また、そのためには、学校での授業と企業における実習との双方向のフィードバックを可能とするためのツールとして、「キャリアプラン(個別の包括支援プラン)」の活用が不可欠である。一人一人の生徒の「キャリアデザイン」を作成し、教員が就労支援(ジョブコーチ)を行うことによって、本人も企業も安心して働ける環境を生み出すことが雇用や職域の拡大に繋がっていくと考える。

【指定討論の要旨】

以上の話題提供を受けて、木村氏、山口氏には各実践におけるキャリア教育の意義を押さえていただいた上で、今後のキャリア教育の充実を図るための具体的な方策及び課題への対応について意見をいただく予定である。加えてNISEによる研究経過報告やフロアの意見も交えながら、討論を深めていきたい。

【文献】

国立特別支援教育総合研究所(2008)知的障害者の確かな就労を実現するための指導方法・内容に関する研究。
(KIKUCHI Kazufumi, OSAKI Hirofumi, INAISHI Kyoko, MATSUMI Kazuki, MORIWAKI Tsutomu, KIMURA Nobutaka, YAMAGUCHI Koichiro)